

(3) 森林科学科

井良沢 道也
Irasawa, Michiya



赴任：2001年

現職：教授

学位：博士（学術）

専門分野：砂防学，森林水文・雪氷防災学，緑化学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 流域における土砂の動態解明及び砂防対策手法に関する研究
2. 溪流環境の保全と創出に関する研究
3. 山地における水文循環特性の解明

担当科目：

1. 砂防学（3年次）
2. 砂防学実習（3年次）
3. 流域保全学（3年次，分担）
4. 森林・雪氷水文学（2年次）
5. 環境緑化学（2年次）
6. 共生環境入門（1年次，分担）
7. 基礎キャリア形成ゼミ（1年次，分担）
8. 地学入門（1年次，分担）
9. 流域管理学特論（大学院修士）
10. 地域の環境を考える（1年次）
11. 森林と人間（2年次）

所属学会等：砂防学会員（理事），緑化学会員，地すべり学会員（東北支部幹事）土木学会員，災害情報学会員，日本雪氷学会員（北東北支部理事），日本雪工学会員（理事），東北森林科学会員，水文水資源学会員（学会誌編集委員会委員），日本自然災害学会員

その他の主な活動：岩手県国土利用計画審議会委員，福島県金山町小栗山地区土砂災害対策委員会委員長，青森県森林土木工事総合評価審査員，岩手県土砂災害発生避難基準検討委員会委員長，宮城県総合土砂災害検討委員会委員長，岩手県Cライン検討委員会委員長，岩手ブロック公共工事総合評価委員会委員，岩手火山災害対策検討委員会委員，国土交通省岩手工務事務所 岩手山直轄砂防事業環境調査検討会委員，（財）砂防水理模型実験検討委員会委員，東北地域環境計画研究会会員，岩手技術士会員，（独）防災科学技術研究所雪氷防災実験棟運用委員会委員，（財）道路保全技術センター道路防災ドクター，（社）雪センター「雪センターTC制度」メンバー，福島県福島県公共事業評価委員会委員

小藤田 久義
Kofujita, Hisayoshi



赴任：1994年

現職：教授

学位：博士（農学）（愛媛大学）

専門分野：木材化学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 樹木芳香族成分の生分解
2. 樹木抽出成分の分析と機能開発

担当科目：

1. 森林科学入門（1年次，分担）
2. 化学入門（1年次，分担）
3. 森林科学基礎演習（1年次，代表担当）
4. 森林と環境（1年次，代表担当）
5. 森林科学研修（2年次，分担）
6. 林産化学（2年次）
7. 森林バイオマスの成分利用（3年次）
8. 森林化学演習（3年次）
9. 森林資源化学特論（大学院修士）

所属学会等：日本木材学会，紙パルプ技術協会，日本農芸化学会，リグニン学会，日本アロマセラピー学会，東北森林科学会（理事）

その他の主な活動：盛岡市クリーンセンター公害監視委員会委員

研究業績

A. 原著論文

1. Tsujimura, M., Goto, M., Tsuji, M., Yamaji, Y., Ashitani, T., Kimura, K., Ohira, T. and Kofujita, H. (2019) Isolation of diterpenoids from sugi wood-drying byproducts and their bioactivities. Journal of Wood Science 65 : 19.

B. 国内学会発表等

1. 田中文悠，若林篤光，小藤田久義（2019）針葉樹揮発成分の抗アルツハイマー病作用．第2回抽出成分討論会（シンポジウム）発表要旨集：15．
2. 近江翔汰，小藤田久義，塚本 匡，大石好行，芝崎祐二（2019）ポリアルプチンとウシ血清アルブミンとの相互作用～相互作用機構の解明～．第60回高分子討論会：Polymer Preprint Japan, Vol. 68 (2) 2019 1Pc035.
3. 片寄芳紀，吉田かさね，小藤田久義（2020）スギ樹皮の複相抽出処理による有用成分の分離回収．第70回日本木材学会大会講演要旨集：M17-P3-12．

関野 登

Sekino, Noboru



赴任：1984年

現職：教授

学位：農学博士（東京大学）

専門分野：木質材料学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 木質材料の接着耐久性の評価
2. 木質系断熱材の開発と性能評価
3. 木質バイオマスの利用技術の開発

担当科目：

1. 森林と環境（全学1年次，分担）
2. 森林科学入門（1年次，分担）
3. 森林科学基礎演習（1年次，分担）
4. 木材と住宅（2年次）
5. 木材工学（3年次）
6. 木材工学演習（3年次）
7. 木質資源工学特論（大学院修士）
8. グローバル環境科学特論（大学院修士，分担）

所属学会等：日本木材学会，日本木材加工技術協会（木質ボード部会・部会長），木質炭化学会

その他の主な活動：「木を勉強する会（木勉会）」代表幹事，「いわて木材利用優良施設コンクール」審査員，岩手県産木材等利用促進計画策定検討委員会（委員長），環境省環境研究総合推進費2-1906アドバイザー

研究業績

A. 著書・訳書

1. 関野 登(2019) 東日本大震災で大学はどう動いたか【2】復興支援と研究・教育の取り組み. 第4章第2節 震災木くずのリサイクル - 復興ボードの生産・活用の支援 -, 岩手大学復興活動記録誌編集委員会編, pp.152-160, 古今書院(10月19日初版発行) ISBN978-4-7722-7150-9.
2. 八代 仁, 関野 登(分担執筆)(2019) 東日本大震災で大学はどう動いたか【1】地震発生から現在までの記録. 第5章第6節 大学院総合科学研究科地域創生専攻の設置(2017.4), 岩手大学復興活動記録誌編集委員会編, pp.260-263, 古今書院(10月19日初版発行) ISBN978-4-7722-7149-3.

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 関野 登, 姜 卓秋(2019) 炭化による木材の熱伝導率の変化とそのメカニズム. 木質炭化学会

誌16(1), 13-23.

C. 国内学会発表

1. 関野 登, 姜 卓秋, 日當和孝, 越戸 翔(2019) シイタケ廃菌床の材料利用の可能性(第1報)～菌床構造の変化とブロック状材料の採取～.(公社)日本木材加工技術協会第37回年次大会(広島), 講演要旨集:17-18(9/17-18, 広島大学).
2. 関野 登, 姜 卓秋(2020) シイタケ廃菌床の材料利用の可能性(第2報)～ブロック材料の採取歩留まり～.第70回日本木材学会大会(鳥取), 3月, 研究発表要旨集:55(I17-P2-03:ISSN 0549-3994).
3. 姜 卓秋, 関野 登(2020) シイタケ廃菌床の材料利用の可能性(第3報)～ブロック材料の密度範囲と機械的性質～.第70回日本木材学会大会(鳥取), 3月, 研究発表要旨集:55(I17-P2-06:ISSN 0549-3994).

立川 史郎

Tatsukawa, Shiro



赴任：1981年

現職：教授

学位：博士（農学）(東京農工大学)

専門分野：林業生産工学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 未利用森林資源のエネルギー利用システム
2. 人工林の高蓄積化に対応した機械化作業システム
3. 日本における馬搬作業の分析と評価

担当科目：

1. 森林科学入門（1年次，分担）
2. 森林と環境（1年次，分担）
3. 森林測量学（2年次）
4. 森林測量学実習（2年次）
5. 林業生産工学（2年次）
6. 林業生産工学実習（3年次）
7. 科学英語（3年次，分担）
8. 森林科学応用演習（4年次）
9. 森林工学特論（大学院修士）

所属学会等：日本森林学会，森林利用学会（理事），東北森林科学会（副会長）

その他の主な活動：福島県公共事業評価委員会委員，東北森林管理局技術検討会委員，いわて林業アカデミー運営協議会委員（議長）

研究業績

A. 国内学会発表

1. 羽柴考佳, 福井悠人, 齋藤仁志, 立川史郎, 澤口勇雄 (2019) 岩手県におけるホイールタイプハーベスタによる CTL 作業システムの生産性. 森林利用学会第 26 回学術研究発表会講演要旨集.
2. 坂野昇平, 立川史郎, 齋藤仁志, 澤口勇雄 (2019) 日本における馬搬の現状と生産性の分析. 森林利用学会第 26 回学術研究発表会講演要旨集.
3. 木村吉大, 羽柴考佳, 齋藤仁志, 立川史郎, 澤口勇雄 (2019) UAV を活用した将来木施業の管理手法の開発. 森林利用学会第 26 回学術研究発表会講演要旨集.

真坂一彦
Masaka, Kazuhiko



赴任: 2017年

現職: 教授

学位: 博士(農学)(北海道大学)

専門分野: 森林生態学, 造林学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 天然林の動態に関する研究
2. 海岸林の保全と管理に関する研究
3. 植物の性比配分戦略に関する研究
4. 養蜂を介した森林の生態系サービスに関する研究
5. 環境林造成および不成績要因に関する研究
6. 飛砂害史に関する研究

担当科目:

1. 森林造成学(3年次)
2. 森林造成学実習(3年次, 分担)
3. 科学英語(3年次, 分担)
4. 森林保護学(3年次, 分担)
5. 樹木学(2年次, 分担)
6. 樹木学実習(2年次, 分担)
7. 森林と環境(1年次, 分担)
8. 森林科学入門(1年次, 分担)
9. 森林造成学特論(大学院修士)

所属学会等: 日本森林学会, 東北森林学会, 北方森林学会, 日本海岸林学会, 日本雪氷学会

学会賞等: 日本森林学会奨励賞(2011年)

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 真坂一彦, 池田正治 (2019) 秋田県由利地方の砂丘荒廃地における西目浜集落の歴史 - とくに製塩に焦点をあてて - 海岸林学会誌 18:1-6.

2. 棚橋生子, 真坂一彦, 佐藤弘和, 福地 稔, 佐藤孝弘 (2019) 多雪地域の重粘土地におけるコバノヤマハンノキ植栽木の成長に及ぼす植栽基盤整備の効果. 日林誌 101:227-234.
 3. 真坂一彦, 佐藤 創, 福地 稔, 鳥田宏行, 阿部友幸, 岩崎健太, 佐藤弘和 (2019) 北海道におけるグイマツ海岸林の密度管理方法. 海岸林学会誌 18:29-34.
 4. Seiwa, K., Masaka, K., Konno, M. and Iwamoto, S. (2019) Role of seed size and relative abundance in conspecific negative distance-dependent seedling mortality for eight trees species in a temperate forest. For. Eco. Manag. 453:117537.
 5. Wulantuya, Masaka, K., Bayandala1, Fukasawa, Y., Matsukura, K. and Seiwa, K. (2020) Gap creation alters the mode of conspecific distance-dependent seedling establishment via changes in the relative influence of pathogens and mycorrhizae. Oecologia 192:449-462.
- B. 報告書・事業報告書
1. 真坂一彦, 脇田陽一, 佐藤孝弘 (2019) 乙部町における新規蜂場開設を目指した蜜源探索に関する研究. 令和元年度受託研究成果報告書(北海道乙部町), pp.1-18.
- C. 国際学会発表
1. Masaka, K. (2019) Management of forests to maximize ecosystem services with reference to SDGs. 岩手大学創立 70 周年記念事業「グローバル人材で未来創造」国際シンポジウム.
 2. Masaka, K. (2019) Ecological Services of forest: from agriculture to disaster prevention. Management of Land and Water Resources - Comparative Studies in Japan and Germany. Leibniz, Germany.
- D. 国内学会発表
1. 鳥田宏行, 岩崎健太, 真坂一彦, 根本征樹, 齋藤佳彦, 孫田 敏 (2019) 防雪林周辺に形成される吹きだまり分布. 雪氷研究大会.
 2. 鳥田宏行, 阿部友幸, 岩崎健太, 佐藤 創, 真坂一彦 (2019) カラマツの枝下高および枝下直径の推定. 第 68 回北方森林学会大会.
 3. 真坂一彦, 鳥田宏行 (2019) 健全で津波抵抗性の高い海岸林の管理に関する研究. 森林総合研究所東北支所 創立 60 周年記念シンポジウム.
 4. 岩崎健太, 鳥田宏行, 真坂一彦, 齋藤佳彦, 孫田敏, 根本征樹, 伊藤陽一 (2019) 防雪林における除伐・枝打ち施業が吹きだまり形状に及ぼす影

- 響・日本農業気象学会北海道支部大会。
5. 真坂一彦(2019) 森 - ミツバチ - 食のつながり ~ 生物多様性と生態系サービス ~ .日本生態学会東北地区会第64回大会 公開講演会。
 6. 真坂一彦(2020) 漆という樹木の特性~漆林の造成にむけて~。【ミニシンポジウム】漆産業の未来を語ろう! ~漆掻き伝統技術とサイエンスの融合を目指して~。第230回木を勉強する会。
 7. 真坂一彦, 佐藤孝弘(2020) 北海道江差町におけるヒバ天然林の27年間の動態。第131回日本森林学会大会。
 8. 鳥田宏行, 阿部友幸, 岩崎健太, 佐藤 創, 石塚航, 真坂一彦(2020) 針葉樹の枝下高および枝下直径の推定。第131回日本森林学会大会。
 9. 岩崎健太, 南光一樹, 中田康隆, 真坂一彦, 篠原慶規, 新田響平, 水永博己(2020) 石狩海岸林の樹高成長に及ぼす微地形の影響。第131回日本森林学会大会。
 10. 阿部友幸, 長坂晶子, 岩崎健太, 鳥田宏行, 長坂有, 中田康隆, 蓮井 聡, 佐藤 創, 真坂一彦, 滝谷美香(2020) 北海道十勝地方のカラマツ人工林の耐風性とその改善手法の検討。第131回日本森林学会大会。

伊 藤 幸 男

Ito, Sachio



赴任：1997年

現職：准教授

学位：博士（農学）（岩手大学）

専門分野：森林政策，木材産業論

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 木材の生産と消費に関する研究
2. 地域林業に関する研究
3. 森林政策に関する研究

担当科目：

1. 森林科学入門（1年次，分担）
2. 森林と環境（1年次，分担）
3. 情報基礎（1年次，分担）
4. 林業・木材産業論（2年次）
5. 山村経済・地域おこし論（2年次，分担）
6. 6次産業化論（2年次，分担）
7. 地域マネジメント論（2年次，分担）
8. 森林政策学（3年次）
9. 科学英語（3年次，分担）
10. 海外・日本の林業（3年次，分担）

11. 地域創生特論（修士，分担）
 12. グローバルエネルギー特論（修士，分担）
 13. 森林山村政策学特論（修士）
- 所属学会等：日本森林学会，林業経済学会，東北森林科学会，農村計画学会，東日本林業経済研究会
研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 高野 涼, 伊藤幸男, 山本信次, 泉谷眞実(2019) 森林経営にかかわる山村住民の森林利用と意味付け - 宮城県米川生産森林組合 A 参事の事例 - . 日本森林学会誌 101(5) : 214-220 .

B. その他

1. 伊藤幸男(2019) 持続可能な地域社会の形成と木質バイオマスの未来。グリーンエージ No. 455 : 7-10 .
2. 伊藤幸男(2019) 「緑の雇用」世代へ転換する林業事業体 - 宮城県の事例 - . 森林組合 No.589 : 16-19 .

C. 国内学会発表

1. 伊藤幸男, 高野 涼, 滝沢裕子, タタウロワナデジダ(2020) 素材生産業者の燃料用素材の供給実態 - 岩手県の事例 - . 第131回日本森林学会大会学術講演集 : 101 .
2. Nadezhda Tataurova1, 伊藤幸男, 山本信次, 滝沢裕子(2020) ロシア連邦国立公園の管理実態と課題 - 沿バイカル国立公園を事例として - . 第131回日本森林学会大会学術講演集 : 201 .
3. 滝沢裕子, 伊藤幸男, 山本信次, タタウロワナデジダ(2020) ドイツの林業請負事業体の実態 - 林業労働力の国際化に伴う認証制度の役割 - . 第131回日本森林学会大会学術講演集 : 202 .

國 崎 貴 嗣

Kunisaki, Takashi



赴任：1997年

現職：准教授

学位：博士（農学）（九州大学）

専門分野：森林計測学，群落生態学，森林計画学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 針葉樹人工林の広葉樹林化技術の開発
2. 手入れ不足な人工林の改善技術の開発
3. 天然更新の簡便な刈り払い技術の開発

担当科目：

1. 森林科学入門（1年次，分担）

2. 基礎数学入門 (1年次)
3. 生物統計学 (1年次)
4. 微分積分学入門 (1年次)
5. 線形代数学入門 (1年次)
6. 森林計測学 (2年次)
7. 森林科学研修 (2年次, 分担)
8. 科学英語 (3年次, 分担)
9. 海外・日本の林業 (3年次)
10. 森林計測学実習 (3年次)
11. インターンシップ (3年次)
12. 森林計画学 (3年次)
13. データ分析演習 (3年次)
14. 森林科学応用演習 (3年次)
15. 森林科学応用演習 (4年次)
16. 教職実践演習 (4年次, 分担)

所属学会等：日本森林学会，日本生態学会，森林立地学会

学会賞等：森林計画学会黒岩菊郎記念研究奨励賞 (2011年3月)

その他の主な活動：日本森林学会英文誌(J. For. Res.)編集委員，いわての森林づくり県民税事業評価委員会委員 (岩手県)，緑の雇用/フォレストリーダー研修講師 (岩手県林業労働対策基金)，フォレストリーダー研修 (森林整備フォローアップ) 講師 (宮城県林業労働力確保支援センター)，森林施業プランナー認定試験面接官 (森林施業プランナー協会)，令和元年度東北森林管理局技術開発委員会委員 (林野庁東北森林管理局)，令和元年度森林・林業技術交流発表会審査副委員長 (林野庁東北森林管理局)，令和元年度国立研究開発法人森林研究・整備機構東北地域評議会 (森林総合研究所東北支所)，宮城県石巻高等学校出前授業講師

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Sugita, H., Nishio, Y., Takahashi, T., Kajimoto, T., Ichihara, Y. and Kunisaki, T. (2019) Regeneration process biased toward under-crown *Sasa*-lacking habitat of sparse *Abies mariesii* forest with dense undergrowth of dwarf bamboo on a snowy mountain, northern Japan. J. For. Res. 24: 178-186.

(b) 紀要

1. 國崎貴嗣，森 晴可 (2019) カラマツ人工林における初回林冠閉鎖前後の林分構造特性からみた混み合い度の基準. 岩大演報 50 : 17-25 .
2. 國崎貴嗣 (2019) アカマツ天然更新試験地にお

ける皆伐 20 年後の更新状況. 岩大演報 50 : 27-34 .

3. 國崎貴嗣 (2019) 広葉樹林筋残し刈り試験地の林分構造と樹種組成. 岩大演報 50 : 35-46 .

齋藤 仁志

Saito, Masashi



赴任：2019年

現職：准教授

学位：博士 (東京農工大学)

専門分野：森林工学

主なテーマ及び主な教育研究活動：

1. 森林路網の効率的配置に関する研究
2. 作業システムの効率化に関する研究
3. 情報化技術を用いた森林管理に関する研究

担当科目：

1. 森林測量学 (2年次)
2. 森林測量学実習 (2年次)
3. 林道工学 (3年次)
4. 林道工学実習 (3年次)
5. 森林科学入門 (1年次, 分担)
6. 林業生産工学特論 (大学院修士, 分担)

所属学会等：日本森林学会，東北森林学会，森林利用学会，森林計画学会

学会賞等：森林利用学会賞 (2013年)

その他の主な活動：長野県路網部会有識者会議委員，長野県森林資源部会有識者会議委員，長野県林業専用道審議委員，次世代架線系高性能林業機械等開発推進会議検討委員 (林野庁)，フォレストワーカー研修講師 (岩手県林業労働対策基金)，フォレストリーダー研修講師 (岩手県林業労働対策基金)，高知県林業大学校講師

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Kazuhiro Aruga, Chikara Nakahata, Masashi Saito (2019) Numerical examination of the optimal bucking method to maximize profits applied in Nasu town. Tochigi Prefecture, Japan European Journal of Forest Engineering.
2. Chikara Nakahata, Kazuhiro Aruga, Masashi Saito, Uichi Hayashi (2019) Productivity and Cost of Clear-Cutting and Regeneration Operations with Small and Medium-Sized Forestry Machines in Utsunomiya City, Tochigi Prefecture, Japan, SMALL-

SCALE FORESTRY.

(b) プロシーディングス

1. Masashi Saito, Tokito Takezawa, Masaru Watanabe, Shirasawa Hiroaki, Tatsuhito Ueki (2019) INFLUENCE OF ENVIRONMENTAL FACTORS ON SEDIMENTARY SAND OF CROSS DRAIN IN OPERATION ROAD FORMEC 2019. Proceedings.
2. Masaru Watanabe, Masashi Saito, Hiroaki Shirasawa, Tatsuhito Ueki (2019) ESTIMATION OF FOREST ROAD NETWORK MAINTENANCE COST CONSIDERING COLLAPSE RISK: AN APPLICATION IN THE JAPAN MOUNTAINOUS REGION FORMEC 2019. Proceedings.

B. 国際学会発表

1. Masaru Watanabe, Masashi Saito, Hiroaki Shirasawa, Tatsuhito Ueki (2019) ESTIMATION OF FOREST ROAD NETWORK MAINTENANCE COST CONSIDERING COLLAPSE RISK: AN APPLICATION IN THE JAPAN MOUNTAINOUS REGION FORMEC 2019.
2. Masashi Saito, Tokito Takezawa, Masaru Watanabe, Shirasawa Hiroaki, Tatsuhito Ueki (2019) INFLUENCE OF ENVIRONMENTAL FACTORS ON SEDIMENTARY SAND OF CROSS DRAIN IN OPERATION ROAD FORMEC 2019.

C. 国内学会発表

1. 羽柴考佳, 福井悠人, 齋藤仁志, 立川史郎, 澤口勇雄 (2019) 岩手県におけるホイールタイプハーベスタによる CTL 作業システムの生産性. 森林利用学会第 26 回学術研究発表会(口頭(一般)), 2019 年 12 月 15 日~2019 年 12 月 15 日.
2. 坂野昇平, 立川史郎, 齋藤仁志, 澤口勇雄 (2019) 日本における馬搬の現状と生産性の分析. 森林利用学会第 26 回学術研究発表会(口頭(一般)), 2019 年 12 月 15 日~2019 年 12 月 15 日.
3. 木村吉大, 羽柴考佳, 齋藤仁志, 立川史郎, 澤口勇雄 (2019) UAV を活用した将来木施業の管理手法の開発. 森林利用学会第 26 回学術研究発表会(口頭(一般)), 2019 年 12 月 15 日~2019 年 12 月 15 日.
4. 塚原美都, 齋藤仁志, 白澤紘明, 山崎敏彦, 植木達人 (2019) 立木情報を考慮した架設可能範囲の推定. 森林利用学会第 26 回学術研究発表会(口頭(一般)), 2019 年 12 月 15 日~2019 年 12 月 15 日.
5. 渡部 優, 齋藤仁志, 白澤紘明, 植木達人, 戸田

堅一朗 (2019) 設置条件を考慮した林道災害復旧費予測モデルの構築に向けた検討. 森林利用学会第 26 回学術研究発表会(口頭(一般)), 2019 年 12 月 15 日~2019 年 12 月 15 日.

6. 齋藤仁志 (2019) 伐出技術から見た木質資源利用可能性と素材生産の展望. 林業経済学会主催, 森林計画学会・森林利用学会共催 合同シンポジウム(シンポジウム・ワークショップ・パネル(指名)), 2019 年 12 月 23 日~2019 年 12 月 23 日.
7. 大矢信次郎, 齋藤仁志, 久保田淳 (2020) 長野県における木質バイオマスのエネルギー利用の現状と今後の展望. 第 131 回日本森林学会大会(口頭(一般)), 2020 年 3 月 27 日~2020 年 3 月 29 日.
8. 塚原美都, 齋藤仁志, 白澤紘明, 渡部 優, 植木達人 (2020) 立木情報を考慮したタワーヤーダ架設可能範囲の広域分布. 第 131 回日本森林学会大会(ポスター(一般)), 2020 年 3 月 27 日~2020 年 3 月 29 日.
9. 生駒 直, 白澤紘明, 齋藤仁志, 植木達人 (2020) 設置条件からみた森林作業道の損壊実態. 第 131 回日本森林学会大会(ポスター(一般)), 2020 年 3 月 27 日~2020 年 3 月 29 日.
10. 齋藤仁志, 渡部 優, 白澤紘明, 白田寿生, 和多田友宏, 古川邦明 (2020) 災害リスクを考慮した森林路網の災害時代替路機能の評価. 第 131 回日本森林学会大会(ポスター(一般)), 2020 年 3 月 27 日~2020 年 3 月 29 日.
11. 瀧誠志郎, 中澤昌彦, 齋藤仁志, 大野勝正, 鈴木秀典, 吉田智佳史, 千原敬也 (2020) SfM を使った動画による作業道の出来形計測. 第 131 回日本森林学会大会(ポスター(一般)), 2020 年 3 月 27 日~2020 年 3 月 29 日.
12. 羽柴考佳, 齋藤仁志, 立川史郎, 澤口勇雄 (2020) UAV 由来の空中写真を用いた森林施業評価技術の検討. 第 131 回日本森林学会大会(ポスター(一般)), 2020 年 3 月 27 日~2020 年 3 月 29 日.

山内 貴義
Yamauchi, Kiyoshi



赴任: 2017年

現職: 准教授

学位: 博士(農学)(東京大学大学院)

専門分野: 野生動物管理学, 動物生態学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. ツキノワグマの個体群動態と将来予測ならびに人里への出没メカニズムの解明

2. ニホンジカの個体数推定と将来予測に関する研究
担当科目：

1. 野生動物管理学 (2年次)
2. 野生動物管理学実習 (2年次)
3. 森林科学入門 (1年次, 分担)
4. 動物と環境 (1年次, 分担)
5. 森林と環境 (1年次, 分担)
6. 基礎生物学実験 (1年次, 分担)
7. 基礎ゼミナール (1年次)
8. 野生動物管理学特論 (大学院修士, 分担)
9. 環境マネジメント実践学 (全学)

所属学会等：日本哺乳類学会, 日本野生動物医学学会
学会賞等：第95回日本繁殖生物学会大会優秀ポスター賞 (2002年)

その他の主な活動：日本哺乳類学会正会員, 日本野生動物医学学会正会員, 日本哺乳類学会シカ作業部会部会員, 農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー (登録番号第350号), 環境省鳥獣保護管理プランナー (登録番号P10015), 鳥獣被害防止総合対策交付金 (鳥獣被害防止都道府県活動支援事業) の事業評価 (岩手県農業振興課), 令和元年度青森県ニホンジカ管理対策検討科学委員会委員, 令和元年度ニホンジカ捕獲関連事業プロジェクトチーム外部有識者 (東北森林管理局), 令和元年度早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査に係る検討委員会の委員 (東北森林管理局), 地域ぐるみの鳥獣被害対策モデル事業 (紫波町鳥獣被害防止対策協議会) におけるニホンジカの生態等研修会の講演, 地域で取組む市街地等におけるクマ防除対策支援事業 (令和元年度県南広域振興局地域経営推進費事業) 講師, 令和元年度特定鳥獣 (獣類) に係る保護管理検討調査業務における東北地方ニホンジカ勉強会への講師

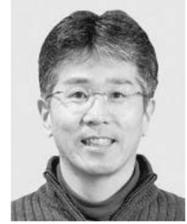
研究業績

A. 国内学会発表

1. 鞍懸重和, 久門美月, 山内貴義 (2019) 北奥羽地域におけるツキノワグマ若齢個体の季節移動とその要因の解析. 日本哺乳類学会 2019 年度大会プログラム・講演要旨集: 156.
2. 久門美月, 鞍懸重和, 山内貴義 (2019) 北奥羽地域に生息するツキノワグマが秋季に針葉樹林を利用する要因の検討. 日本哺乳類学会 2019 年大会要旨集: 156.

東 淳 樹

Azuma, Atsuki



赴任：2000年

現職：講師

学位：博士 (農学) (東京大学)

専門分野：保全生物学, 動物生態学

主な研究テーマ及び教育研究活動：

1. サンバ (ワシタカ目ワシタカ科) の保全生態学的研究
2. 生態系に低負荷な持続可能な暮らしの研究
3. 野生鳥獣による被害対策に関する研究

担当科目：

1. 森林科学入門 (1年次, 分担)
2. 基礎数学演習 (1年次)
3. 動物と環境 (1年次, 分担)
4. 森林情報基礎 (1年次, 分担)
5. 地域生態系保全論 (2年次)
6. 森林科学基礎演習 (2年次, 分担)
7. 科学英語 (3年次, 分担)
8. 野生動物管理学実習 (3年次, 分担)
9. 保全生物学特論 (大学院修士)

所属学会等：日本生態学会, 日本鳥学会, 野生生物と社会学会, 農村計画学会, 応用生態工学会, 農業農村土木学会

その他の主な活動：北上川水系河川整備学識者懇談会委員 (2007年度～), 河川水辺の国勢調査アドバイザー (2007年度～), 岩手県環境審議会委員 (2016年度～), 盛岡市環境審議会委員 (2016年度～), 裏下地区生態系保全対策検討委員会委員 (2008年度～)

研究業績

A. 原著論文

1. Takayuki SAKAKIBARA, Masayuki NOGUCHI, Chiaki YOSHII, Atsuki AZUMA (2020) Diet of the Osprey *Pandion haliaetus* in Inland Japan. *Ornithological Science* 19 (1) 81-86.

B. 国際学会発表

1. Takayuki Sakakibara, Kazuto Sato, Kodai Mori, Tsutomu Tabeta, Atsuki Azuma (2019) Osprey don't Large Scale Migration in Japan?: The First GPS Tracking in Japan. The 11th ARRCN International Symposium, Bali-Indonesia/Poster Presentations P10, Abstracts p.85.
2. Kazuto Sato, Takayuki Sakakibara, Atsuki Azuma (2019) Analysis of Osprey Hunting Grounds in Dam Lakes by Environmental Characteristics.

The 11th ARRCN International Symposium, Bali-Indonesia/Poster Presentations P3, Abstracts p.80.

3. Kodai Mori, Takayuki Sakakibara, Masayuki Noguchi, Chiaki Yoshii, Atsuki Azuma (2019) Diet of Osprey in coastal area, Japan. The 11th ARRCN International Symposium, Bali-Indonesia/Poster Presentations P2, Abstracts p.79 .
4. Atsuki Azuma, Seiichi Dejima, Koich Endo (2019) The first international summit on Grey-faced Buzzard was held in Japan. The 11th ARRCN International Symposium, Bali-Indonesia/Poster Presentations P2, Abstracts p.97.

C. 国内学会発表

1. 榊原貴之, 森 航大, 野口将之, 吉井千晶, 東 淳樹 (2019) ダムにおける外来魚はミサゴの内陸部への分布拡大にどのように貢献しているのか? .日本鳥学会 2019 年度大会講演要旨集:88 . 帝京科学大学 .
2. 榊原貴之, 森 航大, 野口将之, 吉井千晶, 東 淳樹 (2019) 被食者としての外来魚: 上位捕食者からダム生態系管理を考える . 応用生態工学会第 23 回広島大会講演要旨集: 99 . 広島大学 .
3. 佐藤和人, 榊原貴之, 東 淳樹 (2019) ダム湖におけるミサゴの狩場特性 - 環境特性と表層魚類調査による分析 - . 応用生態工学会第 23 回広島大会講演要旨集: 66 . 広島大学 .
4. 佐藤和人, 榊原貴之, 森 航大, 東 淳樹 (2019) ダム湖の物理環境及び表層魚類からみたミサゴの狩場特性 . 日本生態学会東北地区会第 64 回大会講演要旨集: 2 .いわて県民情報交流センター .
5. 森 航大, 榊原貴之, 野口将之, 吉井千晶, 東 淳樹 (2019) 巢内観察カメラを用いた沿岸ミサゴの餌内容解析 - 餌資源からミサゴ保全を考える - . 日本生態学会東北地区会第 64 回大会講演要旨集: 4 .いわて県民情報交流センター .

松 木 佐和子
Matsuki, Sawako



赴任: 2006年

現職: 講 師

学位: 博士 (農学) (北海道大学)

専門分野: 森林生理生態学, 森林保全生態学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 開葉初期に見られる被食防衛メカニズムの樹種特性

2. 広食性昆虫クスサンの大発生メカニズムの解明性

3. 生物多様性に配慮した石灰石鉱山捨石堆積場の緑化

担当科目:

1. 森林保全生態学 (2年次)
2. 森林保護学 (3年次, 分担)
3. 森林科学基礎演習 (1年次, 分担)
4. 「環境」を考える (1年次, 分担)
5. 森林保全生態学特論 (修士1, 2年)
6. 樹木学 (2年次, 分担)
7. 科学英語 (3年次, 分担)
8. 樹木学実習 (2年次, 分担)
9. 野生動物管理学実習 (3年次, 分担)
10. 基礎数学演習 (1年次)
11. 森林科学入門 (1年次, 分担)

所属学会等: 日本生態学会, 日本森林学会, 樹木医学会

その他の主な活動: 仙台市環境影響評価審査委員 (2012年度~), 山形県文化財保護審査議会委員 (2016年度~), 東北森林管理局保護林管理委員会委員 (2018年度~), 盛岡市環境審議会委員 (2018年度~)

白 旗 学

Shirahata, Manabu



赴任: 1991年

現職: 助 教

学位: 博士 (農学) (岩手大学)

専門分野: 造林学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. スギ人工林物質循環系におけるスギ個体の資源獲得と立地環境
2. ウルシ林造成のための実生苗木生産方法の検討
3. 長期モニタリングによるコナラ二次林再生方法の検討

担当科目:

1. 基礎ゼミナール (1年次)
2. 森林科学入門 (1年次, 分担)
3. 情報基礎 (1年次, 分担)
4. 基礎数学演習 (1年次)
5. 森林科学基礎演習 (1年次, 分担)
6. 樹木学実習 (2年次)
7. 森林造成学実習 (3年次)
8. 環境と樹木の生理 (3年次)
9. 環境マネジメント実践学 (全学, 分担)

10. 森林造成学特論(大学院修士, 分担)

所属学会等: 日本森林学会, 日本生態学会, 森林立地学会, 東北森林科学会(企画主事), 根研究会, 日本光合成研究会, 日本種生物学会, 日本海岸林学会

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 田端雅進, 小谷二郎, 石井智朗, 井城泰一, 白旗学(2019) 本数密度と胴枯病がウルシ萌芽木の成長に及ぼす影響. 日本森林学会誌 101:322-327.

(b) 紀要

1. Numakunai, N., Shirahata, M., Yamada, R. (2019) The current status of experimental natural regeneration of the *Quercus serrata* Murray forest, 21 years after logging, with the regeneration cutting. Bulletin of the Iwate University forests 50:47-88.

B. 国内学会発表

1. 松村修平, 白旗学, 中村克典, 前原紀敏(2019) 岩手大学滝沢演習林におけるカミキリムシ相の長期的変化. 東北森林科学会第24回大会講演要旨集, 11.
2. 沼宮内信之, 白旗学, 山田竜輝(2020) 母樹保残法及び更新伐により成立したコナラ二次林の林分構造の比較. 第131回日本森林学会大会学術講演集, 222.
3. 白旗学, 高橋恵華, 福田達胤(2020) コンテナ形状がウルシコンテナ実生苗の当年成長におよぼす影響. 第131回日本森林学会大会学術講演集, 260.

